

# 教育研究業績書

2020年10月27日

所属：看護学科

資格：助教（臨床）

氏名：谷郷 智美

研究分野	研究内容のキーワード
母性看護学	子育て支援、地域母子保健
学位	最終学歴
修士（看護学）	大阪府立大学大学院博士前期課程

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要

1 教育方法の実践例		
1. 母性看護学実習	2019年4月～現在	学内実習で看護技術の指導を行い、また臨床では看護過程の展開の支援や臨床指導者等との連携と調整を行っている。
2. 母性看護学Ⅱ	2017年4月～現在	産婦・産褥期・新生児期のアセスメントとケアについて講義を行った。また、グループワークおよび演習の準備・運営、課題の添削等を行った。実習が近づいているということで、より実践的にイメージできるよう内容を工夫した。また、国家試験対策も視野に、講義時に国家試験の問題を取り入れた。
3. 国家試験対策 学生個別指導担当	2017年5月～2017年10月	国家試験対策として、3年生の模試の結果から教員の支援を必要とする学生を4名担当し、2週間に1度程度、学生の学習の進捗状況、学習の仕方、目標の立て方等について個別に指導を担当した。
4. チーム医療論	2017年4月	講義を1回担当し、チーム医療における助産師の役割について講義した。対象が3年生であることを考慮し、また後期より実習が始まることも踏まえて、視野を広くもって自身がチームの一員となるという自覚が促せるよう考えた。
5. 朝小サマースクール	2016年8月	小学生を対象に、聴診器を用いて心臓の音を聞く体験と講義をした。
6. 特別学期	2016年2月	助産師志望の学生に対する講義を准教授とともに担当した。本学には助産師養成課程がないため、進学する際の準備等についても説明した。
7. 母性看護学Ⅰ	2016年～現在	準備の段階で准教授の指導を受けながら分娩期の異常と看護、妊娠期の異常と看護について講義した。学生の学習進捗状況や理解度に合わせ、内容を絞る、イラスト等を多く取り入れてイメージが付きやすくする、臨床の場面を説明するなどの工夫を行った。
8. 附属高校 スーパーサイエンス講義	2016年～現在	附属高校の生徒を対象に、1年に1回、母性看護学の概要を講義している。生命誕生のメカニズム、女性の身体の仕組み、分娩経過、新生児の世話や計測の実技、妊婦体験などを実施している。高校生でも理解できるようにわかりやすい講義を心がけた。
9. キャリア支援	2015年4月～現在	助産師学校への進学を希望している学生に対する進路説明と相談を実施した。また助産師志望の場合、もしくは進路に悩んでいる場合、いつでも研究室に相談に来てよい旨を学生に周知しており、随時相談に応じている。
10. 初期演習	2015年2017年	今後の学習の動機付けとなるよう母性看護学分野の紹介、助産師という職種の具体的な職務内容と自身の臨床経験の経験談を講義した。

2 作成した教科書、教材		
1. 母性看護学実習 実習要項・評価基準・実習記録の作成	2017年4月	本学での初めての分野別実習を実施するにあたり、実習病院に研修に向きそれぞれの特徴を把握した。そのうえで、本学の学生の特徴を踏まえて、学生が臨地実習で有効な学びができるよう、実習要項と評価基準、実習記録を教授・准教授にご助言いただきながら作成した。
2. 国家試験対策e-learningシステム	2009年10月	学生が国家試験対策として、自主的に学習が可能となるように、E-learningシステムを用いて母性看護学に関する問題と解答を作成した。学生が活用し、国家試験に向けての学習に役立てることができた。

3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. アドバンス助産師 CloCMIP レベルⅢ	2016年12月	助産実践能力習熟段階（クリニカルラダー）レベルⅢの認証を受けた

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 資格、免許</b>		
2. 新生児蘇生法 Aコース 認定	2012年6月	日本周産期・新生児医学会の新生児蘇生法Aコースの修了認定を受けた
3. 国際認定ラクテーションコンサルタント	2009年7月	母乳育児支援に関する国際認定資格として国際認定ラクテーションコンサルタント(IBCLC)を取得した。
4. 受胎調節実地指導員	2005年6月	
5. 助産師、看護師、保健師	2001年4月	
<b>2 特許等</b>		
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
1. 大阪市東住吉区 子ども子育てプラザ プレパパママ講座講師	2015年4月～2017年3月	子ども子育てプラザにて、プレパパママの人たちに妊婦体験や沐浴体験を行うプレパパママ講座を年に6回程度開催し、講師を担当した。妊娠期からの子育て支援が求められている中、妊娠中に子育て支援施設に向くことで、産後の施設利用が増えたとの報告を受けている。
2. 大阪市住吉区 子ども子育てプラザ ベビーマッサージ講座講師	2014年～現在	1年に5回程度、子ども子育てプラザ主催のベビーマッサージ講座の講師を担当している。生後3～10か月の子どもとその親が対象の講座で、子どもとのふれあいを通して絆を深めることを目的としている。地域の施設での開催であるため、近隣の親子が多く、お互いの交流や仲間作りにも役立ててもらえるよう工夫している。また、助産師であるため、育児相談にも応じている。
3. 大阪府助産師会 思春期Eメール相談 相談員	2012年～現在	大阪府助産師会で実施している思春期の子どもたちからのEメールによる相談に答える相談員をしている。1か月に1～2回程度の当番のほか、お互いの回答に意見を述べ回答を推敲している。
4. 大阪府助産師会 ティーンズヘルスセミナー講師	2009年～現在	毎年2～3校程度、大阪市内の中学校に出向き、性教育を行っている。事前に該当中学校の教員と相談し、講演の内容や生徒の特徴などについて打ち合わせを行い、各中学校の生徒のニーズにあった講義を心がけている。
<b>4 その他</b>		
1. 大阪府助産師会 新生児訪問マニュアル改訂委員	2019年5月～現在	大阪府助産師会が作成している新生児訪問マニュアルの改訂を担当している。
2. 第19回日本母性看護学会学術集会 事務局会計担当、企画実行委員	2016年5月～2017年9月	本学で開催された第19回日本母性看護学会学術集会の事務局として、会計担当と企画実行委員として企画運営に携わった。運営マニュアルを作成し、学外の実行委員や学内の協力員である教員の支援のもと、滞りなく運営を行うことができた。
3. 日本母性看護学会 学術・教育支援 担当幹事	2016年4月2019年6月	日本母性看護学会の学術・教育支援担当幹事として、学会主催のセミナー・講演会等の運営に携わった。
4. 第15回日本アディクション看護学会学術集会 実行協力員	2015年9月～2016年9月	本学で開催された第15回日本アディクション看護学会学術集会で実行協力員として学会運営をサポートした
5. 大阪府助産師会 子育て・女性の健康支援センター 運営委員	2012年4月～現在	大阪府助産師会で実施されている事業のうち、思春期Eメール相談の事業運営を担当している。会議に出席して他の事業との連携をとったり、シフトの作成や相談員間の調整などを行っている。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>1 著書</b>				
<b>2 学位論文</b>				
1. 第2子を出産した女性の産後3か月間の母親としての経験と想い	単	2012年3月	大阪府立大学大学院看護学研究科博士前期課程	第2子を出産した女性17名に、産後1か月と3か月の3回半構造的面接を行い、母親としての経験と想いについて、質的帰納的に分析した。1か月時は10のカテゴリと40のサブカテゴリが、3か月時は10のカテゴリと41のサブカテゴリが抽出された。母親は1か月時には【2児との関わりのバランスの悪さが気になる】経験をしていたが、3か月になると【2児との関わりを会得する】ことで【よりきょうだいらしいくなった2児を見てうれしい】と想っていた。また1か月時には【母親・家族としての自覚を実感する】経験をし、3か月になると【より母親・家族としての自覚が強まる】に変化していた。
<b>3 学術論文</b>				
1. 養育支援訪問事業で訪問助産師が行っている自身の支援に対する認識	共	2018年12月	日本助産学会誌 32(2), 159-168	谷郷智美, 川村 千恵子, 寺井 陽子, 片桐 未希子, 大橋 一友 担当箇所：研究計画・データ収集・分析・論文執筆 養育支援訪問事業に従事する助産師12名に半構造的面接により自身の支援に対する認識について尋ね、得られたデータを質的帰納的に分析した。助産師は自身の行っている支援は専門性を活かした継続的支援であり、従事によって助産師活動に深みが増し自

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>3 学術論文</b>				
2. 第2子出産後3か月間に母親が経験した子どもとの関わりに対する思い(査読付)	共	2015年7月	母性衛生56(2), 359-366.	身の成長につながると認識していた。一方対象者と向き合う為に精神的な負担も大きく助産師に対する支援を求めるとともに、自身の支援の範囲を見極めていた。 谷郷智美・町浦美智子・佐保美奈子 担当箇所：研究計画・データ収集・分析・論文執筆 第2子を出産した母親15名に産後1か月と産後3か月2回半構造的面接を実施し、質的帰納的に分析した。産後1か月にはそれぞれの児との関わりの方のバランスの悪さ、産後3か月時には2児との関わりの方の不足を感じていた。一方、子どもがきょうだいだと感じ2児の育児の楽しさを発見していた。
3. 第2子出産後3か月間に母親が経験した感情の変化(査読付)	共	2014年3月	日本母性看護学会誌 14(1), 43-49	谷郷智美・町浦美智子 担当箇所：研究計画・データ収集・分析・論文執筆 2人の子どもの育てる母親が産後3か月間にどのような感情の変化を経験しているかを明らかにした。母親14名を対象に、産後1か月、3か月の2回、半構造的面接を実施し質的帰納的に分析した。産後1か月時は、【2人目の育児は余裕があり楽しい】【2児の育児の大変さを感じる】【母親・家族としての自覚を実感する】、産後3か月時は、【2児の育児は楽で楽しい】【2児の育児の大変さを実感する】【より母親・家族としての自覚が強まる】が抽出された。母親・家族としての自覚は第1子の時以上に感じており、3か月時には生活の変化や精神的負担を乗り越えたことでそれが強まったと考えられた。
4. 弟妹の誕生に伴う同胞の変化と家族の関わり	共	2010年7月	大阪母性衛生学会雑誌 46(1), 29-33	谷郷智美・川村千恵子 担当：データ分析・論文執筆 第2子出産前後、第3子出産前後の母親7名に半構造的面接を行い、同胞の変化と同胞に対する家族の関わりについて明らかにした。妊娠中は全ての家族が同胞に母親の妊娠を説明しており、具体的なイメージづけを行う関わりを行っていた。同胞は自身が妊娠の疑似体験をしたり赤ちゃんへの興味を示していた。退院後同胞は、弟妹をかわいがる面もあるが、興味関心が偏ったり焼きもちを焼いたり、今まで以上に甘えるようになったり、排泄の失敗などの退行現象がみられた。同胞の変化に母親は敏感に気がついており、同胞のニーズを受け止め、スキンシップを意識して増やしたり、理解できる言葉で愛情表現を行ったりしていた。
<b>その他</b>				
<b>1. 学会ゲストスピーカー</b>				
<b>2. 学会発表</b>				
1. 養育支援訪問事業に従事する助産師の保健師との連携・協働	共	2016年11月	日本子ども虐待防止学会第22回学術集会おおさか大会 示説発表(大阪)	谷郷智美・川村千恵子・片桐未希子 養育支援訪問事業に従事する助産師にインタビューを行い、保健師との連携・協働について明らかにした。助産師はケースの支援の方向性を随時連携・相談しながら、支援にあっていた。助産師は、支援チームの一員として、助産師の訪問期間終了後の支援や連携の場に、より参画したいと考えていた。
2. 養育支援訪問事業における訪問助産師の行う支援に対する捉え方	共	2016年06月	日本母性看護学会学術集会 口頭発表(久留米)	谷郷智美・川村千恵子 養育支援訪問事業に従事する訪問助産師にインタビューを行い、養育支援訪問事業における助産師の支援とそれに対する捉え方について明らかにした。助産師は、自身の専門性を活かして支援をしており、また他の専門職と連携をとることで、より有効な支援につながると考えていた。
3. 第2子出産後3か月間の母親の感情の変化と思い	共	2012年5月	第14回日本母性看護学会学術集会 口頭発表(神戸)	谷郷智美・町浦美智子 第2子出産後の女性の母親としての感情の変化に着目し、第2子出産後の母親17名を対象に産後1か月と3か月に2回半構造的面接を実施し、質的帰納的に分析した。産後1か月時には、18個のサブカテゴリーと、3個のカテゴリーが得られ、産後3か月には21個のサブカテゴリーと、3個のカテゴリーが得られた。母親は、産後1か月時には、すでに子どものいる生活に馴染んでいるうえに、親としての責任を感じ、自分に母性を感じ、家族になったと実感し、母親としての自覚を実感していた。産後3か月になり、母親として成長し、2児のいる生活に馴染むことで、母親としての自覚が強まる経験をしていた。
4. 第2子出産後3か月間に母親が2児との関わりを会得する経験	共	2012年11月	第53回日本母性衛生学会学術集会 口頭発表(福岡)	谷郷智美・町浦美智子・佐保美奈子 第2子出産後の母親が産後3か月間に経験した2児との関わりとそれに対する思いを明らかにした。第2子を出産した母親17名を対象に、半構造的面接を産後1か

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
5. 弟妹の誕生に伴う同胞の変化と家族の関わり	共	2010年2月	第49回大阪母性衛生学会学術集会 口頭発表 (大阪)	月と産後3か月の2回実施し、得られたデータを質的帰納的に分析した。産後1か月時には4個のカテゴリー【】と14個のサブカテゴリー《》が、産後3か月時には4個のカテゴリーと12個のサブカテゴリーが得られた。母親は、1か月時には【2児との関わりのバランスの悪さが気になる】経験をしてきたが、3か月になると《荒れる第1子とのつきあい方がわかってきた》ので、《第1子を怒ることが減る》経験を、【2児との関わりを会得する】と捉えていた。 谷郷智美・川村千恵子 第2子出産前後、第3子出産前後の母親7名に半構造的面接を行い、同胞の変化と同胞に対する家族の関わりについて明らかにした。妊娠中は全ての家族が同胞に母親の妊娠を説明し、具体的なイメージづけを行う関わりを行っていた。同胞は妊娠の疑似体験をしたり赤ちゃんへの興味を示していた。退院後同胞は、弟妹をかわいがる面もあるが、今まで以上に甘えるようになったり、排泄の失敗などの退行現象がみられた。同胞の変化に母親は敏感に気がついており、スキンシップを意識して増やしたり、理解できる言葉で愛情表現を行ったりしていた。経産婦に対する同胞との関わりについての支援の必要性が示唆された。
<b>3. 総説</b>				
<b>4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績</b>				
<b>5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等</b>				
1. 乳幼児期・学童期の心とからだⅠ・Ⅱ	単	2018年9月	大阪市東住吉区子育て支援ボランティア養成講座講師	ファミリーサポートの提供会員向けの養成講座で、乳幼児・学童期の心とからだについて講演を行った
2. 産後のこころとからだ	単	2018年9月	大阪市東住吉区子育て支援ボランティア養成講座講師	ファミリーサポートの提供会員向けの養成講座で、産褥期の心身の状態について、産後うつ予防と早期発見についても含めて講演を行った
3. ついに来た！嵐の思春期！！子どもも大人も嵐に突入	単	2017年3月	大阪市立男女共同参画センター 子育て活動支援館 クレオ大阪子育て館 子育て支援活動者研修講師	日ごろ子育て支援に従事する子育て支援施設の職員（非専門職も含む）を対象に、子どもたちを支援するなかで大きな視野で思春期を見据え、思春期の混乱を成長の過程と前向きに捉えられるよう、講演を行った。
4. 生命誕生・いのちの大切さ	単	2017年10月	学文中学校 依頼講演 生命誕生・いのちの大切さ	学文中学校1年生を対象に、赤ちゃんが生まれるまで、出産の流れ、おつきあいのマナー、自他を大切にするという内容で講演を行った。子どもたちの興味関心をひくよう、DVDやプチロールプレイを用いた。
5. 乳幼児期・学童期の心とからだⅠ・Ⅱ	単	2016年10月	大阪市東住吉区子育て支援ボランティア養成講座講師	子育て支援ボランティア養成講座の受講者に、子どもの心とからだの発達、支援のポイントについて講座を開催した。
6. 近年の看護学生の傾向と学生指導のポイント	単	2015年7月	小阪産病院勉強会	病院の看護職に、実習指導技術の向上を目的に、学生の背景や傾向と指導のポイントについて講義とグループワークを行った
<b>6. 研究費の取得状況</b>				
1. 第2子を出産した母親の育児に関する能力感を高める支援の開発とその効果の検証	単	2017年	科学研究費補助金（若手B）	第2子を出産する母親とその家族に対する支援プログラムを開発し、母親の育児に関する能力感尺度を用いて評価を行う
2. 第2子の母親が自尊感情を高め子育てが楽しくなる支援の開発とその効果の検証	単	2016年	武庫川女子大学科学研究費補助金学内奨励金	第2子の母親が自尊感情を高め子育てが楽しくなるように、支援プログラムを開発する。今回はプログラムの評価指標の検討を行った。

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2016年6月～2019年6月	日本母性看護学会 学術・教育支援 担当幹事
2. 2016年5月～2017年9月	第19回日本母性看護学会学術集会 事務局、企画・実行委員
3. 2015年9月～2016年9月	第15回日本アディクション看護学会学術集会 実行協力員
4. 2015年4月～2017年3月	大阪市東住吉区子ども・子育てプラザ プレパパプレママ講座講師
5. 2014年4月～現在	大阪市住吉区子ども・子育てプラザ ベビーマッサージ講座 講師
6. 2012年4月～現在	大阪府助産師会 事業部（旧子育て・女性の健康支援センター） 運営委員
7. 2012年4月～現在	一般社団法人大阪府助産師会思春期Eメール相談 相談員
8. 2009年～現在	一般社団法人大阪府助産師会ティーンズヘルスセミナー 講師
9. 2008年4月～2012年3月	大阪府助産師会 教育委員